



普通高等教育“十一五”国家级规划教材
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

《日语综合教程》第七、八册 课文翻译与练习答案

编著 季林根 皮细庚



日本语能力测试·JLPT® 官方指定教材
《日语综合教程》第七、八册
课文翻译与练习答案

日语版 第1版

《日语综合教程》第七、八册 课文翻译与练习答案

编者 李树德 吕敬东

商务印书馆
SHANGWU YINSHU GUAN



普通高等教育“十一五”国家级规划教材
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

《日语综合教程》第七、八册 课文翻译与练习答案

编著 季林根 皮细庚



图书在版编目(CIP)数据

《日语综合教程》第七、八册课文翻译与练习答案/季林根,皮细庚编著. —上海:上海外语教育出版社,2009
(新世纪高等学校日语专业本科生系列教材)

ISBN 978-7-5446-1251-7

I. 日… II. ①季…②皮… III. 日语—高等学校—教学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 025946 号

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 应 允

印 刷: 上海信老印刷厂
经 销: 新华书店上海发行所
开 本: 787×1092 1/16 印张 10.5 字数 211千字
版 次: 2009年9月第1版 2009年9月第1次印刷
印 数: 3 100 册

书 号: ISBN 978-7-5446-1251-7 / H · 0514

定 价: 19.00 元

本版图书如有印装质量问题,可向本社调换

编者的话

《日语综合教程》第七、八册出版后，承蒙广大读者的厚爱，均已重印。同时，我们不断收到读者的来信，希望能有一本相关的学习参考用书。为了满足广大读者的需要，方便广大读者学习和使用，我们编写了这本《日语综合教程》第七、八册的课文翻译与练习答案。

本书的内容由练习参考答案、课文参考译文和学习指导讲解三部分组成。其中，第七册的练习参考答案及学习指导讲解由上海外国语大学的季林根教授承担，部分课文译文选自己出版的经典译作，其余部分由华东师范大学的朱芬及周祥崧承担。第八册内容均由上海外国语大学的皮细庚教授承担，其中“故乡”一篇的译文选用了鲁迅先生的原作。

本书在编写过程中得到了上海外国语大学日籍教师稻森信昭和樱田芳树老师的悉心指导，华东师范大学的高宁教授在第七册译文的审校过程中，也给予了很大帮助。借此机会谨向各位表示由衷的感谢。

由于我们水平有限，再加上时间仓促，书中难免存在错漏，恳请广大读者给予批评指正。

编者

2009年5月10日

目次

第七册 课文翻译与练习答案 1

第1課	二つの川のほとりで	3
第2課	辛夷の花	9
第3課	ナイン	17
第4課	わたしの夏——1945年・広島	28
第5課	みやこ人と都会人	35
第6課	自然と人間	44
第7課	城の崎にて	52
第8課	案内者	60
第9課	手作り幻想	67
第10課	徒然草	74

第八册 课文翻译与练习答案 81

第1課	漢字の性格	83
第2課	日本の渚	90
第3課	羅生門	94
第4課	故郷	102
第5課	エッセイ	112
第6課	TUGUMI——告白——	127
第7課	新しいパラダイムを求めて	138
第8課	文化と理解	147
第9課	古典	157
第10課	漢文訓読	161

第七册

课文翻译与练习答案

二つの川のほとりで

学習の手引き

1. 「川」の何が話題として提出されているか、注意すること。

身近な川の昔の美と今の醜が話題となっている。

2. 文中に出てきた麻生川と片平川的环境を想像しながら読むこと。

麻生川:川土手に桜並木があり、かつては、川岸に生い茂る真葛やススキ、密生した野草など豊かな生命の息吹があった。片平川との合流地点は蛸も生息できるほど水のきれいなところであった。

今では、工業排水や投棄物によって、川は汚れ、劣悪不快な光景になってしまった。

片平川:かつて、片平川のほとりは関東有数の湧き水地帯で、多摩丘陵の雑木山が澄み透った地下水を豊かに保っている。あふれ出た水は小さな野川をなして田んぼの中を流れていた。片平川は水の美しい川であり、草木染めもできるほどであった。

今では、投棄物によってすっかり汚れている。

3. 本文を読みながら麻生川の今昔の姿の相違点を見つけ出すこと。

昔:川土手に桜並木があり、しかも川岸に生い茂る真葛やススキ、密生した野草といった豊かな生命の息吹があった。夏は蛸が顔にぶつかるほど飛んでいた。

今:高いフェンスが張られ、工業排水や投棄物によって、川は汚れ、劣悪不快な光景になってしまった。

昔の美と今の醜

4. 本文に使われている擬人法表現を見つけ出し、その前後関係に注意すること。

・「私がこの川と出会ったのは」

美しい川の水と草木染めの関係

・「ただ桜だけがしいんと静まって、街道の排気ガスのかすかな臭気の中にさびしそうに微笑んでいる」

今も昔と同じように美しく咲き続ける桜のことと、苛立ちやすく退廃した「現

代」の人間の心の荒廃を対照的に述べている。

・「醜い、情けない、哀れな麻生川」

荒廃した「現代」を憐れみ、哀しんでいると同時に、自然と環境との関係改善を願っている。

5. 「醜い猥雑なもの」「劣悪不快な川の光景」「いら立ちやすく退廃した現代」について、表現の意味内容を理解すること。

「醜い猥雑なもの」

空き瓶とか、空き缶、発泡スチロールの箱、ビニール袋などを意味する。

「劣悪不快な川の光景」

単に川の汚れに対して述べているのではなく、川の汚染の原因に人間の心の荒廃があることをも含んで批判する表現である。川の汚染が、投棄された物とともに、投棄する人によってより汚されていく実態に対しての筆者の強い憤りが表されている。

「いら立ちやすく退廃した現代」

川の汚れは、何より人工のものであり、他者を思いやる心が欠けてしまっている「現代」のことを意味する。

6. 鴨の親子に関する表現を見つけ出すこと。

- ① ヘドロ状の滓の浮かぶ川の中州に上って、水を眺める(時もある)。賢い鴨はどうも日を選んでやってくる。
- ② ついにこの川でひなを育てだした。桜が咲いても帰らず、懸命にひなに餌のあるところを教えている(ようだ)。けなげなかわいい鴨の子が、親を中心に逆立ちをしては川底の藻をあさり、中州や川べりに憩う(姿が見られるようになった)。
- ③ かわいいおしりを上に向けて、ほとんど逆立ちの連続で、餌をあさっても、餌は極めて乏しく、鴨たちの空腹は一日中癒えない様子である。
- ④ 夕方になると、リーダーが率いて思い思いのねぐらに帰っていく(ようだ)。
- ⑤ 夕闇の底から鴨の鳴き声が聞こえてきた。

7. 「投げ入れる」と「投棄」との表現のニュアンスの違いについて考えること。

「投げ入れる」

本文では、餌をあげることを通して、鴨への同情の気持ちを表す。

「投棄」

本文では、鴨に餌をあげることは行政の「規則」違反にあたるという非情さを表す。

8. 「道行く人」「みんな」「人間」といったそれぞれの言葉のつながりについて考えること。

いずれも人間であるが、「道行く人」は鴨をかわいがる人間である。「みんな」は、

筆者を含めて、苛酷な環境では生きていられないと気づいたすべての人のことを指す。本文の中の「人間」は、「みんな」と同じように、「道行く人」を抽象化した人のことを指す。

練習

一、次の言葉を覚えなさい。

(1) 次の単語の読み方と日本語の漢字を覚えなさい。

音色ねいろ 滓かす 清冽せいれつ あさ(漁)るあさ 猥雑わいざつ 粹いき 清婉せいえん 心行くこころ ゆ
いら(苛)立つだ けなげ(健気) みにく醜い も藻 ようえん妖艶 い癒える
わび(侘)しい

(2) 次の単語の意味を覚えなさい。

平べったい＝平らで薄い。/扁平的,平坦的。

たじろぐ＝しり込みする。/退缩,畏缩。

二、次の日本語を中国語に訳しなさい。

(略)→课文参考译文

三、本文の内容に基づいて、次の質問に答えなさい。

1. 草木染めの美しい布を染めるためである。染織家にとって川は美の源泉だから。/今まで利用してきた川が汚染されて、その水が使えなくなったのである。
2. 色鮮やかで光沢のある、鮮麗な色彩は、手間をかけて成育させる材料の植物や様々な工夫とともに、何よりも染め、さらすための美しい水が必要であることが感じられる。
3. 川に対して一種の擬人化表現を用いるところに、筆者の自然への慈しみの心が表されている。
4. かつては蜚が飛び交い、美しい水が絶対条件の草木染めがされていた川が、今では様々な投棄物によって「猥雑な汚らしさを見せている」ほどに変貌してしまったこと。
5. 環境汚染は時代進歩の産物であり、人工的なものであって、他人のことを思いやる心がかけていること(が見えてくる)。
6. 「自転車や空き缶が投げ込まれている川」という退廃した様子と対照している。
7. 「高いフェンス」ではなく、自然(桜)によって自然(川)を守るという昔の人の知恵を指す。

8. 物言わぬ桜と自転車の中に、「退廃した現代」の人間たちの心の荒廃を嘆く對話だろう。
9. これは筆者の主張したい意見である。きれいな自然環境の再生を図ろうと期待している。
10. 単に川の汚れに対して述べているのではなく、川の汚染の原因に人間の心の荒廃があることをすべての人間に訴えたいのである。
11. 汚染のひどい麻生川に鴨などが来るはずがないと信じているという理由。
12. 本文では、空腹が満たされないという意味である。
13. 「気の毒な」は、餌の少ない鴨の親子への思いやりであり、「わびしい」は、川の汚染に対しての筆者の哀しみの現れである。
14. バブル経済の崩壊をさす。
15. 過酷な環境を指す。
16. 第1段落

「坂を下ると…」～「…飽くなく物を投げ込む人のことを思った」

筆者の家の近所の片平川は、かつては水の美しい川であり、草木染のできるほどだったのに、今では投棄物によってすっかり汚染されている。染色家の山崎氏を烏川のほとりに訪ねた折に、改めて美の源泉としての川の意味に思いをめぐらせた。

第2段落

「この片平川を併せて…」～「…悪い状況になってしまっているのだ。」

麻生川の場合も環境が悪化しており、自転車の投棄のようないら立った現代の退廃が示されている。桜の美は、そうした状況を静かに語っているようだ。

第3段落

「この、醜い、情けない…」～ 終わり。

現代の退廃によって汚れた麻生川に鴨の親子が住み着いた。不況による環境の浄化とともに、人々の目が鴨の成育によって、環境改善に向かうことを筆者は願っている。

四、次の文章を読んで、後の質問に答えなさい。

- 問1 文章中の下線部①「いつの間にか平気になった」は、作者の薔薇に対する気持ちがどうなってきたことを示していると思うか。10文字以内で答えなさい。
- 愛情が深まったこと

- 問2 文章中の(A)に入れる文として、次のア～エのうちから、最も適当なものを選んで、○をつけなさい。

エ

問3 文章中の(1)に入れることばとして、次のア～エのうちから、最も適当なものを選んで、○をつけなさい。

ア

問4 文章中の(2)に入れることばとして、次のア～エのうちから、最も適当なものを選んで、○をつけなさい。

ウ

問5 文章中の下線部②「ほとんど総毛立つ思いをした」のはなぜか。次のア～エのうちから、最も適当なものを選んで、○をつけなさい。

イ

問6 文章中の下線部④～⑥の漢字に振り仮名をつけ、かなを漢字に直しなさい。

④(なえき)

⑤(じ)

⑦(りん)

⑧(納得)

⑨(無造作)

⑩(隅々)

課文参考译文

两河今昔

編 朱 芬 译

下坡就是一条小河，叫片平川，没多远就汇入了麻生川。合流处架有一座小桥，夏天站在上面，萤火虫扑面而来，久负盛名。然而，这已是30年前的情景。如今护栏高高筑起，空瓶、空罐、泡沫盒、塑料袋依旧不断扔进河里，一片驳杂。

小河历史不短，却毁于旦夕。与它初会是18年前，印象至深的是那清澈见底的河水。往上走一点，有一座寺庙，叫草木寺。战后，印染家山崎青树从信州移居至此，用“草木染色法”成功地染出了漂亮的布匹。片平川两岸是关东有名的泉水区，多摩丘陵的杂木林下蕴藏了丰富的清泉，喷涌而出，即为无名之河。它们流淌于田野之间，咿咿呀呀，低声浅唱，就像哼摇篮曲一般。“草木染色法”就是用清澈的井中之泉进行印染、漂洗的，不过，等我住到片平时，山崎先生已经撤离此地，移居群马县乌川河畔。大概是为了更加丰富、更加清冽的水源而去的吧。

我曾去乌川河畔拜访过这位山崎先生，获益匪浅。譬如说紫草，就要从播种育苗做到在月下欣赏它可爱的白花，不如此，紫根就长不好；再譬如他告诉我，染出2丈7尺桃红色布需要多少桃树，红花印染要染几轮，至于苏木印染和青茅印染又是如何如何，多得让人记不住。言谈之间，他还让我欣赏了各色“草木染色法”制成的绸布。匹匹都光彩亮丽，那鲜艳是平安朝时代的人们做梦也想不到的，我惊叹不已。不过，那美丽的源头是

美丽的水啊！我至今仍时常回忆起那时的事。这 20 年间，我总想起已变得不堪入目的片平川河底的污物，总忘不了没完没了往河里扔东西的人们。

而与片平川汇合后流得更远些的麻生川，情况又如何呢？就在几年前，麻生川还未采取防护措施，围栏也没围上。我当时还不觉得那是行政措施跟不上，反倒敬畏于河堤上丛生的甘葛藤的顽强生命力，陶醉于好几种芒草形成的“麦浪”，欣赏着野草宝库般的茂密草丛。

然而，没多久，麻生川也被改造成人工河床，岸边筑起了高高围栏，空罐子、雨伞之类的东西开始越栏入河。这回颇具特色的是，扔的东西里面，有自行车。大概是哪位老兄看到沿河小道上密密麻麻立了一排上班上学都需用的自行车，感到不满吧。多的时候，甚至四五辆一起扔。台风过后水位上涨，自行车卡住了许多脏东西，那光景着实恶心。

麻生川大转弯的地方，架了一座桥，连接两岸街道。站在桥上，俯视丢弃着自行车、空罐头的河流，仿佛一下子看清了浮躁颓废的现代社会的真面目。然而，回头朝上游看去，却意外地发现，沿河是一片灿烂的樱花树。以前人们就是用这情趣盎然的方式来守护河堤的。到了樱花盛开的季节，只需几日，河景便焕然一新。晨樱的清婉，午樱的烂漫，夜樱的妖艳，都可以尽情享受。夜晚的樱花尤其美丽。既不见河的污浊，又无赏花人的打扰，只有樱花静静地开放，在若有若无的汽车尾气中寂寞地微笑。它也许在同河底那折了羽翼横躺着的自行车无声地交谈着呢。这世界，已不堪入目。

有一年，这丑陋、悲哀的麻生川，突然飞来了几只野鸭。刚开始以为是阴差阳错，因为它们也不是每天都来。有时立在淤泥堆砌成的河中沙洲上，眺望水面。这聪明的野鸭，似乎知道挑日子来呢，专挑周六、周日或雨后，也就是工业废水少，河水较干净，河里食物较多的日子。更惊人的是，后来野鸭开始在这里繁殖了。到了樱花盛开的时节也不北归，而是拼命告诉小鸭哪里可以捕到食。从此便可看到勇敢可爱的小鸭跟着老鸭探入水中寻觅河底的水藻吃，或在河中沙洲、河岸休憩。

它们撅着小屁股，从不敢怠慢，可还是觅不到多少食物。看来它们都没有填饱肚子的时候。行人也会觉得可爱可怜，停下脚步张望片刻，那时总有一阵辛酸涌上心头。也有人偷偷投点面包屑，但向河里投食是明令禁止的，终究无法给鸭子们供食。那些鸭子能不能长大啊——这常会成为当时人们的话题。

人们看到老鸭携小鸭河中游的景象，也许就不再往河里扔东西了吧——大家都这样祈祷。就从那时起，经济萧条悄然来袭。河水渐次清澈起来，肥皂沫似的泡沫没了踪影。今年野鸭的种类也有所增加，长尾鸭多了，还有绿头鸭。一天来的鸭子多的时候超过 30 只。傍晚，领头的鸭子会领着鸭群各自回巢。前几天，听到暮色中传来鸭子的叫声，或许又有小鸭出壳了吧。现代社会的野鸭开始在如此残酷的环境中定居，而人类，或许也到了厌倦繁荣，开始反思的时候了。希望如此。

（摘自《国语展望 第 92 号》1993 年刊）

辛夷の花

学習の手引き

1. 車内の様子と筆者の態度を考えること。

車内の乗客:筆者夫婦のほかに、商人ふうの夫婦連れ、冬外套を着た男。

乗客の様子:筆者以外の人は寒さに嫌悪を感じて、雪には関心を示さなかった(座席を移った)。具体的にいえば、「妻」は読書、商人ふうの夫婦連れは会話に熱中し、冬外套の男は寝ている。

筆者の態度:寒さには困惑するが、突然の吹雪を、むしろ雪国らしい旅情をかきたてるものとして喜び、感傷的な物思いに浸っている。

①「こちらの窓際に強情にがんばっていた。」

②「雪はいっこう苦にならない。」

③「なんだか残り惜しそうに～しみじみと見入ることができるまで。」

④「雪国の春の真っ先に～ぼたぼたと落ちているにちがいがなかった。」

2. 車窓風景に対する筆者の感想をまとめてみること。

雨後の車窓風景がより生き生きとして、すがすがしかった。

3. 宿の女中と筆者の心情を比べること。

思いがけない吹雪で、宿の女中は同情の気持ちを示したが、筆者は、雪はいっこう苦にならなかった。むしろ、それを雪国らしい旅情をかきたてるものとして喜んだ。

4. 時間の経過に従って、筆者の雪に対する気持ちを整理してみること。特に、筆者の感傷的気分に注意せよ。

雪に対する愛着の気持ちと雪国と別れるときの惜しむ気持ち。その気持ちと雪国との別れに感傷的な気分を理解するには、文章中の次の表現をよく読むといい。

①「こちらの窓際に強情にがんばっていた。」

②「雪はいっこう苦にならない。」

③「なんだか残り惜しそうに～しみじみと見入ることができるまで。」

④「雪国の春の真っ先に～ぼたぼたと落ちているにちがいがなかった。」

5. 雪国と別れるときの筆者の気持ちを考えること。またその気持ちを描写するところをよく読むこと。

例えば、「なんだか残り惜しそうに見やっていた。」「もう木曾路ともお別れだ。」

「気まぐれな雪よ、～しみじみと見入ることができるまで。」といった部分は、雪国と別れるときの筆者の気持ちを表している。

6. 辛夷の花に対する筆者の執着を考えること。「旅の哀れ」に注意せよ。

辛夷の花への筆者の執着は、「その辛夷の白い花らしいものを見つけようとした」によって表されている。

辛夷の花への執着は、筆者の新たな旅情への関心を示したものである。辛夷の花は「雪国の春真っ先に咲く」という性質をもつために、筆者はそれに心を引き付けられたのである。また、筆者の辛夷の花への執着は、雪への愛着の気持ちと、雪国と別れるときの感傷的な気分によるものである。

「あわれ」とは、直接的な悲しさではなく、何かもの悲しい、しみじみと心に触れる心情を指すと思われる。これは古語の「もののあわれ」と同質の感情に近いものである。本文の場合は、筆者が最初から浸っていた感傷的な旅情を意味し、雪国の春の前ぶれである辛夷の花を見つけることによって、その感傷にしみじみ浸りたいと筆者は思っているのである。もし筆者が初めから妻と同じところに座っていたとしたら、辛夷の花にもさほどの感傷を感じ得なかったであろう。

7. 妻との会話を読んで、両者の気持ちの違いを考えること。

両者の言葉を取り上げて説明してみよう。

(筆者)「せっかく旅に出てきたのに……やつもないもんだ。」

これは、ぞんざいな言い方。照れ隠しと、妻への隔てのない親しみの気持ちを表す。実は、筆者は妻との会話を通して、妻とともに車窓を眺め、辛夷の花を見つめようとするのである。

(妻)「だって、わたしなぞは、旅先で……不満そうな顔をして僕のほうを見た。」

普段本を読むひまがないから、たまにその時間があつて、旅先でまで文句を言われるのは、かなわないという不満の気持ちを表す。

(妻)「あら、あれをごらんにならなかったの。」

本ばかり読んでいないで、外の景色を見ろと注意した夫より、自分のほうがちゃんと外の景色を見ていたのよという気持ち。

(筆者)「うそを言え。」

本を読んでいた妻が花が見られたので、とても残念に思う。

(筆者)「何、まぐれ当たりに……川のほうには……。」

自分の見られなかった悔しさからの負け惜しみと言い訳の気持ち。

自分の見ていた川のほうにも、花以外に面白い景色があったことを告げ、妻に対抗し、また、自分の不注意を言い訳しようとする気持ち。

(妻) 「いいわ。また、すぐ見つけてあげるわ。」

偉そうなことを言っても、頼りない夫をおかしく思うとともに、面倒を見てやろうという気持ち。

8. 最終段落の筆者の気持ちを考え、またそこに至るまでの筆者の気持ちを整理して
みること。

文章全体にわたって、筆者は雪と辛夷の花に関心を集中している。前半は雪、後半は辛夷の花に分かれて描かれている。そのどちらも雪国らしい旅情を味わいたい気持ちを表している。最終段落に筆者は目を合わせて、この目で見られなかった辛夷の花を心の中で想像したのだろうが、筆者の真の目的は、花自体にあるのではなく、「旅のあわれ」に浸りたいということである。

9. 本文に「……」が多く使われているが、それぞれ何を意味しているか、またどんな働きをしているか。

余韻を持たせ、やわらかい雰囲気を作り出す働きを持っている。具体的にいえば、会話の場合——言外の心情を匂わせ、余韻を持たせる。

文末の場合——同じ心情や行為が続いていく時間の経過を表し、余韻を持たせる。

10. 本文に「そんな」「その」といった指示語が多く使われているが、それぞれ何を意味しているか、またどんな働きをしているか。

・ 指示語の示す意味は、本文を読むときに前後の関係を考えながら、確認すること(ここでは省く)。

・ 「そんな」「その」といった指示語の多用は、文章の続き方が滑らかになる。また、はっきりと断定しない婉曲な言い回しで、文章にやわらかさを与えている。

練習

一、次の言葉を覚えなさい。

(1) 次の単語の読み方と日本語の漢字を覚えなさい。

強情ごうじよう 気兼ねきが 相槌あいづち 空けるうつ 観念するかんねん

(2) 次の単語の意味を覚えなさい。

くっきり＝輪郭、境界線が明らかに際立っている様子。/鮮明, 显眼, 清楚。

ひとしきり＝しばらくの間、盛んである様子。/一時, 一阵。